

プロローグ

人を人たらしめるものは何だろう。

そんな問いを立てたとき、人は全知覚センサーを絶えず働かせながら生きていることに気づく。動物に触覚があるように、人には皮膚感覚が備わっている。皮膚は宇宙との接点である。自分とそれ以外を隔てるもするが、ソトと最初にコネクトするのはこの領域であることを覚えておきたい。不快の感覚を伝えてくれる素晴らしい教師が、自分の肉体を覆っているのだ。ここからの教えや知らせに対して繊細になっていく。直感にも似た本能的な防衛と保護。全く自分自身であるための、最もベーシックな機能がそこにある。

人はボディという肉体の外側に、さらに何層ものオーラの服をまとっている。この衣裳は、自らのエネルギー体を司るチャクラがデザインする。

ゆえにあなたはさしずめ、自分自身をデザインしプロデュースするブランド・プロデューサーとして、この世に存在する。とても素晴らしい才能が授けられているのだ、その誕生のはじめから、宇宙との接点となるもうひとつの機能は、呼吸である。何気ない呼吸と吸気の繰り返しの間に、

私たちの存在する意味を見てみる。人は繊細になればなるほど、この世に在るといふその神秘に目覚め、謙虚になっていくようになっていくのかもしれない。

この世界はすべて波動というバイブレーションから成り立ち、常に振動している。調和がとれているときにのみ、互いの波長バランスは絶妙にかみ合っている。だからそうなったとき、すかさず進化の車輪は自然に回転し、展開し、加速しはじめるのだ。悩みとはそれらバイブレーションのブレにより生じるもので、そうしたズレや乱れを立て直すよう促す、いわゆるプロックが置かれている状態。突如今の人生に入り込んでくると、居座られてしまいがちで、おまけにきちんと向き合って対処していかない限りは立ち去ってくれない、いわば第二幕が明ける前のカーテンのように、次のシーンへの行く手を遮断するかの如く降ろされる。

でも次のステップのためには悩みは解決されなくてはいけないし、そして必ず解決されていくようになっていく。なぜならかのシエークスピアが語ったように、この世は舞台であり、人生は起承転結の4幕から成り立ち、一人ひとりに授かったプロットがある。シエークスピアの物語は悲劇も多いけれど私たちのそれは、いずれもハッピーエンドに設定されている。

これが宇宙の進化の法則で、そう決まっているから。

それから魂のレベルでいうところの、今世ではカルマを解消するのだと決めて転生してきている人たちには、それが悩みという形をとっているかもしれないことを、もうここであらかじめお伝えしておこうと思う。この考え方は、これから進化を遂げていこうとしている私達にとつて、とても大きな変化の時を楽に超えていくためのスキルのひとつとして使えるようにすることがポイント。

タイミングとは全体の調和を図るのに最善の時点を指していて、この度の執筆に際してもこの恩恵あればこそ。

すべてのものには時がある。

本書では、いかに宇宙を信頼して生きていけるようになるかを高次元、多次元からの見え方や考えの目線で感じていただければと思う。自分の可能性や、心ゆたかにあなた自身で生きていくことへとつなげてくれる情報は、天界からの「語り」に入っている。高次のエネルギーを保つ言葉は、知らず知らずになんだか効いてくる読むビタミン剤のようにあなたの中を巡ってくれるだろう。

プロローグを書いている今、正直なところどんな作品になるのか私にも未知。でもこの世は無

の状態から生まれた。スピリチュアルな視点は悩みの解消につながるストラテジーとして使える。願わくは自分仕様にアレンジされて、望む人生にいつも意識的でありますように。